

福岡大学病院

研修医 宮山 隆志 2017年3月

福岡大学病院初期研修医2年目の宮山隆志と申します。

2017年1月からの3ヶ月間、出水総合医療センター消化器内科にて研修をさせていただきました。

研修1年目は大学病院で過ごしてきたため市中病院で幅広い疾患を経験したい、内視鏡検査をはじめとした手技を習得したい、鹿児島大学出身であり鹿児島が懐かしい等の思いから出水総合医療センターでの研修を選択させていただきました。

3ヶ月を通して、逆流性食道炎、出血性十二指腸潰瘍、結腸憩室炎などの消化管疾患、肝性脳症や総胆管結石、急性膵炎などの肝胆膵疾患と幅広い症例を経験することが出来ました。大学病院と異なり腹痛や吐血、下血といった主訴で来院される患者さんを診断、治療していく一連のプロセスを学ぶことができました。また、内科、外科の連携がスムーズであり、各診療科の垣根の低さの大切さを感じました。

上部消化管内視鏡検査や下部消化管内視鏡検査では先生方から丁寧な御指導いただき、また真近で先生方の高度な内視鏡技術を拝見するなかで、微弱ではありますが手技の向上が図れたのではと思います。ただ、内視鏡検査において技術はもちろんですが、それ以上に異常所見を発見し診断、治療方針を下していくことの重要性を痛感しました。

総胆管結石や急性胆管炎等に行われる内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)は福岡大学病院では消化器外科で実施されているため、今回の研修で初めて経験することができ、大変勉強になりました。3ヶ月間を通して多くのことを学ばせて頂き、充実した研修を行うことができました。

最後になりましたが、藤田先生、軸屋先生、樺山先生、稲津先生には丁寧なご指導をしていただき大変お世話になりました。また、いつも声をかけ気遣って下さった宗清先生ありがとうございました。

そしてサポートして頂いた消化器センターの看護師さんをはじめコメディカルの方々、職員の皆様、感謝申し上げます。4月からは福岡大学消化器内科に入局を予定しています。ここで学んだことを生かして精進していきたいと思っています。3か月と短い間でしたが、本当にありがとうございました。